

ながむろ水辺ミュージアム（兵庫県加古川市）

- 本地域では、ため池とそれらをつなぐ水路を舞台として、そこに育まれる自然、歴史、文化、人々の生活などをまるごと展示しようとする「いなみ野ため池ミュージアム」の取組を展開してきた。
- その母体となる組織体制をベースとして、新旧地域住民のコミュニティーづくりを図りながら、ため池に生息する希少な生物など地域のかげがえのない財産を次世代へ引き継いでいく。
- その一環として、都市部の小学生と地元小学生との農業体験交流やジュンサイ採り、新旧地域住民が一体となったため池の草刈りやかい掘りによる清掃等を実施している。

【地区概要】

- ・取組面積 28.9 ha
(田 28.0 ha、畑 0.9 ha)
- ・資源量
開水路 13.5 km、農道 2.9 km、
ため池 4箇所
- ・主な構成員
農業者、自治会、女性会、子供会、
老人会、婦人会、消防団 等
- ・交付金 約3百万円(H26)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

遊休農地の活用



コスモス



そば・コスモス祭り

遊休農地を活用し景観形成を図るため、コスモスと赤そばを植栽。コスモス鑑賞会を開催し、地域住民の交流を行った。また、交流会では地域で採れた農産物や竹炭の販売も行った。

ため池の保全



地域住民が一体となり、ため池の草刈りやため池内の清掃を実施。



ジュンサイは、ハゴロモ科の多年生水草で、若い茎や葉は寒天質の粘液に覆われ、日本料理の食材として使われている。

都市住民との交流



「中の池」に自生しているジュンサイを活用した「ジュンサイ祭り」を開催し、地域内外の約300名が参加。ため池に生きる生物・植物の学習会を行い、ため池などの地域資源の大切さを子供達等参加者に伝えた。

さんがまき

三箇牧地区農空間保全協議会（大阪府高槻市）

- 当地域は京都から大阪の中間地点に位置し、地域との交流促進を目的としたイベントや景観形成、小学校と連携した農業体験、大阪府内の他の活動組織との交流等により、様々なつながりを構築。
- 「農地・水」の制度が始まるまでは、地域機能増進事業をきっかけに、幹線水路の空き地を利用したポケットパークや緑道を整備する環境保全の活動に取り組んでいた。
- 地域機能増進事業が終了した時点で農地・水の取組が始まり、これまで取り組んできた景観の取組も継続することができ、地域の繋がりや醸成をさらに深めることができた。

【地区概要】

- ・取組面積 98.7ha
(田 97.4ha、畑 1.3ha)
- ・資源量
開水路 34.5km、農道 14km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、子供会、
小学校、高槻レンゲ振興会 等
- ・交付金 約3百万円(H26)
〔農地維持支払
資源向上支払(共同)〕

地域の活動内容

- 地域の交流の場として、レンゲの里やコスモス栽培の場を一般開放することで、自然のふれあいを求めて訪れる人に好評。
- ホームページにより地域の紹介を行っている。
- 環境保全活動として、春に「チューリップフェスタ」、秋には「緑化フェスタ」を毎年開催している。



路肩・法面の草刈り



レンゲ祭



チューリップの植栽



地域を彩る花植え

活動の広がり



農地・水の他地区と積極的に交流し情報交換

小学校との連携により農業体験等を開催



- 大阪府の組織と交流の場を設けることで情報発信、情報の入手。
- 小学校へ農業体験の場を提供することで、小学校からもイベントの際はフォロワーがあり、更なる展開をのぞむ。

活動での効果



緑化フェスタ



レンゲウォーク



花一杯運動



菜の花観察

- 地域の景観に関する意識が上がったことで地域ではゴミが出なくなった。
- 色々な取組において小学校と連携することで、子どもが参加する機会が増え、子ども達も元気になった。
- 今後は、子ども達が将来農家になってみたいと思える環境、取組を行っていきたい。